

## 試験研究成果普及情報

部門	養鶏	対象	普及
課題名: 鶏用混合油性アジュバント加不活化ワクチン(OEV)接種が採卵鶏の生産性に及ぼす影響と廃鶏時におけるオイルシストの残留			
[要約] ワクチンの用量用法とは異なる接種法は、増体量、飼料摂取量、産卵率の減少を招く。また、この方法はOEV接種後1年(廃鶏出荷時)においてもオイルシストの残留が、ほぼ100%の鶏に認めらる。			
キーワード(専門区分) 薬剤(研究対象) 家禽類-採卵鶏			
(フリーキーワード) OEV、オイルシスト、残留、廃鶏、産卵率			
実施機関名(主 査) 畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室			
(協力機関) なし			
(実施機関) 2001年度			

### [目的及び背景]

鶏疾病の研究・ワクチンの開発が進み、多くの油性アジュバント加不活化ワクチン(OEV)が市販化され、育成期間中に接種するワクチンの数は年々増加の傾向がある。ワクチン接種労力の軽減のために、野外では用量用法とは異なる接種法を実施している例もあり、これらOEVの市販化と併行するかのよう、廃鶏時のワクチンのオイル残留が問題となってきている。そこで、用量用法とは異なる接種法が鶏の生産性に及ぼす影響と廃鶏時におけるオイルシストの残留に関するかを検討した。試験には83日齢の採卵鶏のジュリア(銘柄1)、コーラル(銘柄2)、イサブラウン(銘柄3)を用い、接種方法により、それらを6区分した。1区は4つのOEVを、2区は3つはOEVと残りの1つはアルミニウムゲルワクチンを、3、5区は1区のワクチンを全て1本に混合し、4、6区は2区のワクチンを全て混合したものを、3、4区は胸部筋肉内に、5、6区は脚部筋肉内に接種した。1、2区は用量用法通り、3～6区は用量用法とは異なる方法の接種である。

### [成果内容]

- 1 接種後1週間の増体量は1、2区に比べ、3～6区は劣り、5、6区では明らかな差が認められた( $p < 0.01$ )(図1)
- 2 調査期間中の平均産卵率は銘柄1では5、6区が、銘柄2では3、5区が、銘柄3では3、5、6区が低く(表1)、初期産卵も劣る傾向にあった。
- 3 OEV接種後1年(廃鶏出荷時)におけるオイルシストは、5、6区では全ての鶏に、3区では80%、4区では60%の鶏に残留が見られた。1、2区にも残留が見られたが、問題となるようなものでは無かった(図3)。

### [留意事項]

- 1 野外では今回よりもさらに多くの組合せのOEV接種の可能性も考えられ、生産性への影響やオイルシストの残留はさらに悪化する可能性もある。

### [普及対象地域]

県下全域

### [行政上の措置]

### [普及状況]

### [成果の概要]

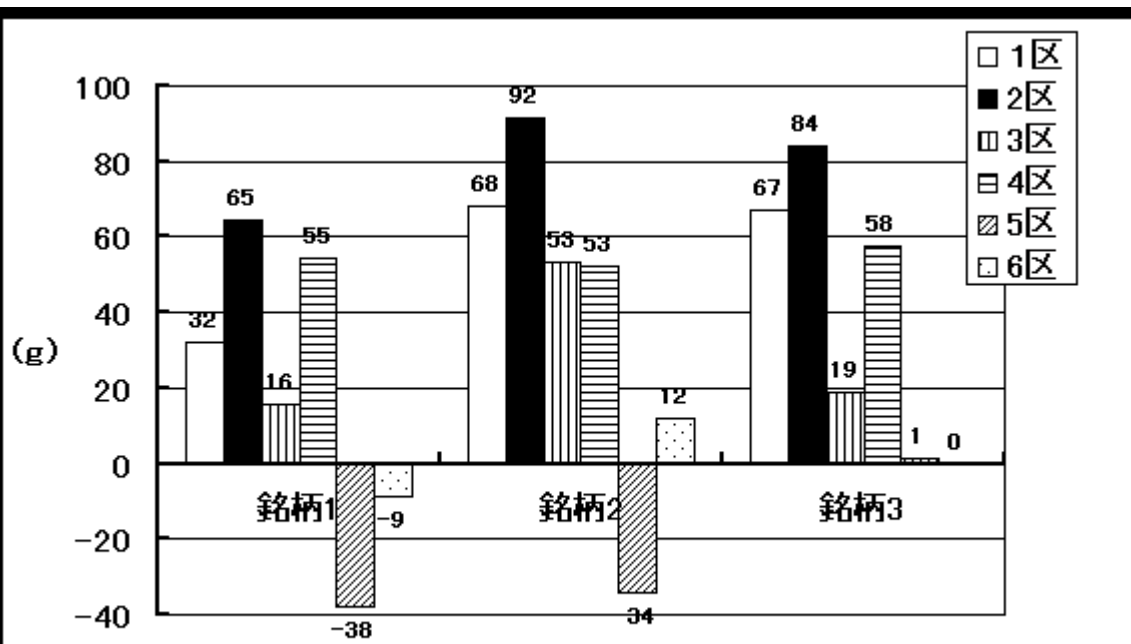


図1 90日齢OEV接種後1週間の増体量

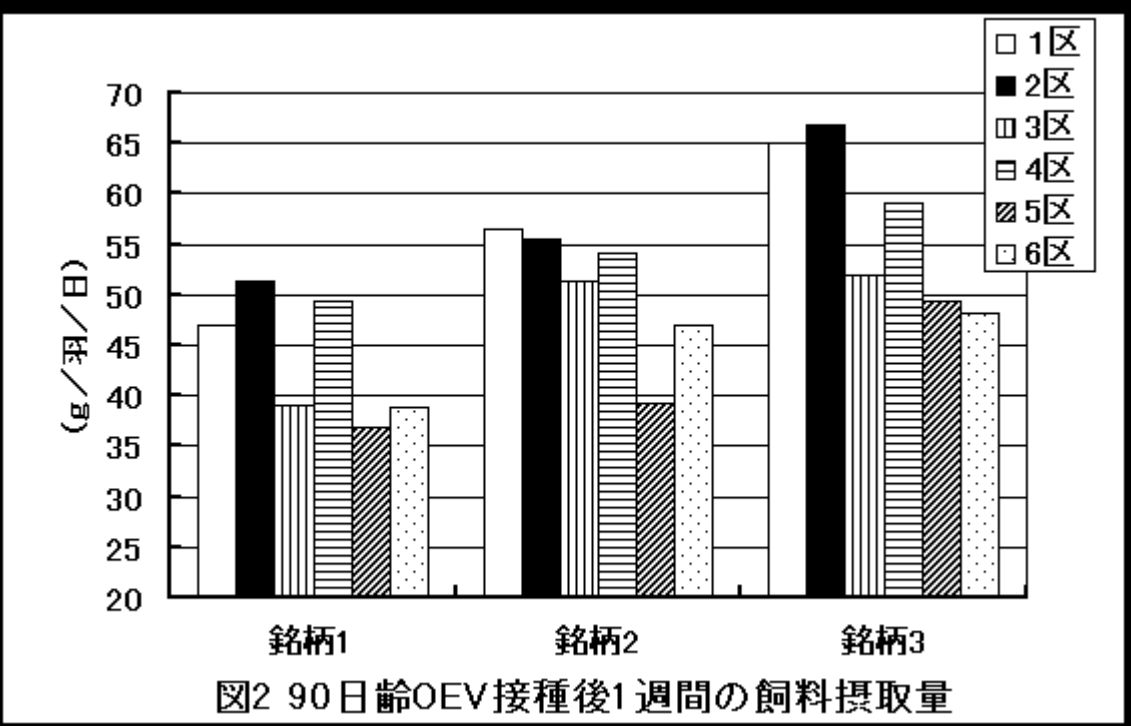


図2 90日齢OEV接種後1週間の飼料摂取量

表1 各銘柄における調査期間中の平均産卵率(%)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区
銘柄1	79.7	78.3	81.4	83.4	74.9	76.3
銘柄2	86.0	83.7	82.0	82.6	81.9	85.9
銘柄3	74.8	75.9	72.8	76.5	73.5	73.4

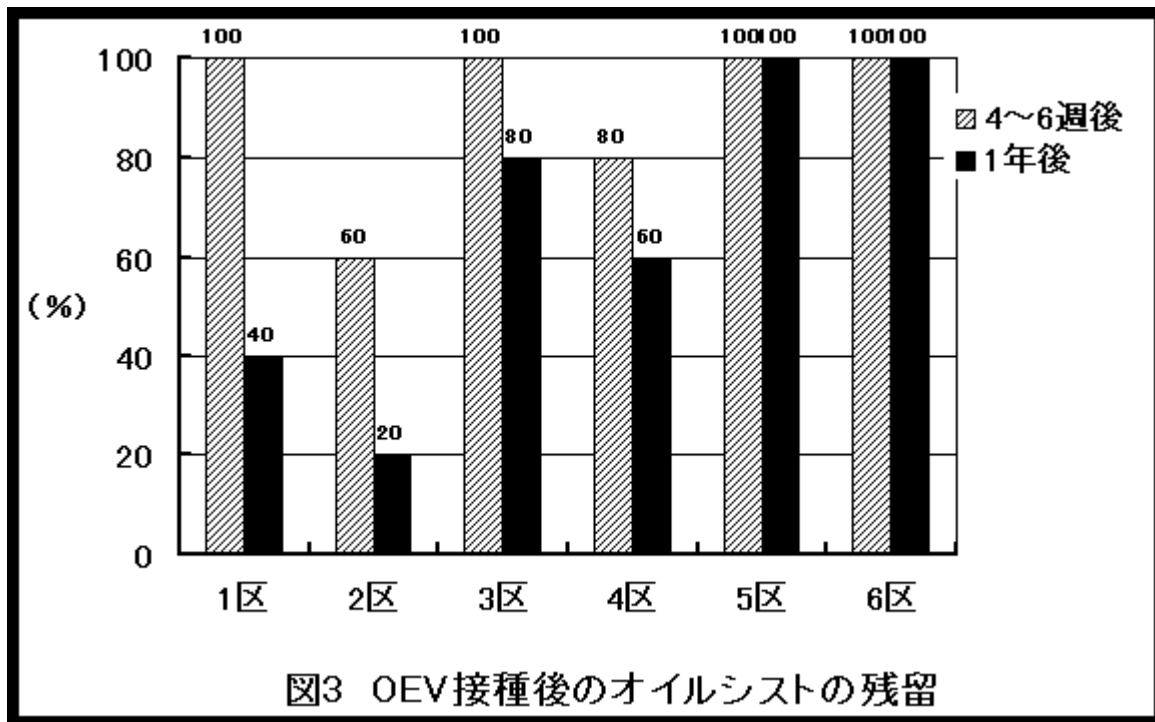


図3 OEV接種後のオイルシスの残留

[発表及び関連文献]

平成13年度試験研究成果発表会資料 新しい農林業技術(養鶏)  
 第26回千葉県獣医学会講演抄録  
 第224回鶏病事例検討会発表  
 鶏病研究会報投稿中